



**為替、株式、債券、金利等に
関する知識が欠かせない**

現在、金融機関経由で最も販売
残高が多い投資信託は、外債ファ

ンドである。これは、米国、ドイ
ツなどのユーロ諸国、英国、オ
ーストラリアなどの海外の国の政府
や政府系機関、あるいは民間企業
が発行した債券（海外債券）外

債）を組み入れ運用されている投
資信託の一種。中でも、最も残高
が多いのは「グローバル・ソプリ
ン・オープン（毎月決算型）」と
いう投資信託だ。

国の短期金利の水準によって、そ
の収益性は時々刻々変わる。
ということとは、これらの金融商
品を銀行窓口で日常的に扱う以
上、その資産価値や収益性に直接
影響を与えている為替、債券、株
式、短期金利などのマーケットに
ついての知識が欠かせないとい
うことだ。

これを買った顧客から
みれば、この金融商品の
資産価値は毎日のように
変動している。そしてそ
の資産価値の変動は何に
基づくかといえば、例え
ば「ドイツ国債の価格」
「米国債券の価格」が変
動するからであり、「外
国為替市場におけるユー
ロの対円相場」「米ドル
の対円相場」が変わるか
らだ。

ところで、日本株に投
資するファンドの値動き
は、日経平均株価に代表
される日本株の動向によ
って決まるのが原則だ。
あるいは、相対的に金
利が高いことで人気があ
るオーストラリアドルの
外貨預金は、オーストラ
リアドルの対円相場と同

さらに言えば、図にあるとお
り、これらの各マーケットは「実
体経済」「政治」「経済政策」と分
ちがたく絡み合っている。
顧客から「なぜこのファンドは
昨年10月以降に資産価値が下がっ
たのか？」と問われて有効な回答
ができないければ、投資信託は扱え
ないのが当然だと思う。では、ど
うやってこうしたマーケットの学
習を進めていけばいいのだろう
か？

次号から「超入門・マーケット
リテラシー」を数回にわたってお
届けしよう。その中で、マーケッ
トの学習の仕方について、金融機
関に就職されて間もない皆さん
に、紹介していこうと思う。

**市場性商品を扱うことの
意味を考えよう**

まず、金融機関に職を得られた

これから数回にわたって、初心
者に向けてマーケット・リテラシ
ー（株式、為替、債券、短期金融
市場、商品市場などについての読
む、解く、話す能力）を涵養する
ための誌上セミナーを開きたいと
思う。

例えば、預貯金のほとんどは利
息が決まっており、かつ多くの場
合には満期がある。ということ
は、顧客からみれば、預け入れれ
ば後は満期を待つだけではないとい

取扱い商品のラインナップが多
様化してくれば、顧客との接点に
おいて必要なカルチャーも変わら
ざるを得ない。

銀行などの金融機関が、個人を
含む一般の顧客に対し国債を販売
しはじめてから20年以上、投資信
託の販売に乗り出してから10年
が経過した。さらには、多くの金
融機関で変額個人年金保険の取扱
いを始めている。以前、顧客から
の資金吸収手段はほとんど預貯金
に限られていたことから考えると、
まさに隔世の感がある。

今 年度も多数の方が金融機関
の行職員としての新たな一
歩を踏み出されたと思う。
昨年9月半ばから一気に表面化
した米国のサブプライム問題。そ
の余波を受けて、実体経済は今、
100年に一度と形容されるほど
の非常に困難な状況にある。
このような深刻な経済・金融危
機の真っ只中に、その渦中の金融
業に職を得られた皆さんは、ある
意味では幸運だ。なぜなら、金融
が経済全体に対して負っている使
命や役割の本質を知るには、今が
絶好のチャンスだからだ。順風満
帆のときには物事の本質が見えて
こないものである。

方たちに対して申し上げたいの
は、「皆さんは、伝統的な金融機
関業務（預金、貸付、為替）よ
り、はるかに広範囲の金融業務を
日常的に行う会社勤務するの
だ」ということ。それを最も端的
に示すのが、日常的に市場性商品
を店頭や渉外の現場で扱っている
ということだ。

角川総一の



マーケット・リテラシー
金融市場を読む、解く、話す力を養う

File. 044

市場性商品を取り扱うにあたり不可欠な知識とは？

**金融商品の資産価値の変動に影響を与える
マーケットの動きを学習しよう!**

MARKET LITERACY